

1. 報告要旨

2011年3月11日の福島第一原発の事故から9年目となりました。原発事故が起きた直後から放射能測定室開所の準備に入り、人々の身の安全を確保するために始めた放射能測定が今も続いています。目の前の命を救う、生きるか死ぬかの測定は、少しずつ形を変え、多くの人々に支えられ、やがて子どもたちの未来に伝えるものとしての形も成しつつあります。

今年度は、ゲルマニウム半導体検出器を導入し、これまで「不検出」としてしか表記できなかったセシウム 134・137 の 137 の低い放射能の値も、数値として残すことができるようになりました。私たちが、原発事故の被害に遭い、放射能測定を始めた時、「事故前はどうかだったの？これは本当に恐れる数値なの？」と判断するための比較データを探すことに苦労しました。また、見つけても、その多くは国のデータだったので信用することができませんでした。国は、原発事故が起きてすぐ、混乱を防ぐために、私たちに真実を伝えず無用な被曝をさせました。その経緯から、私たちは国を信頼することができなくなってしまいました。

今年度の事業を通じて、私たちは、自分たちが測ったデータを、より精度の高い形で子どもたちに残し伝えることができるようになったことに、ほっとしています。その測定結果を子どもたちが未来を支える舵取りのために役立ててくれる時がくると信じているからです。

さらに、今年度事業は、私たちにとって大切な海の汚染の見守りにも大きく貢献しています。海水の測定は低い数値を残さなければならず、これまでの測定設備では限界がありました。来年度は海洋汚染とは切っても切り離せないトリチウムの測定の強化を行う予定ですが、今年度の事業でその土台を作ることができました。

毎年、一步ずつの前進ではありますが、真実の追求を進めていけることは共に歩んでくださる皆さんの応援とお力添えのおかげです。本当にありがとうございます。

2. 成果物

1. 測定件数：[1,849件/年](#)（内訳：セシウム 1,666件、トリチウム 55件）
2. ゲルマニウム半導体検出器の導入による検出下限値の引き下げ（2020/1より）
3. [海洋調査の実施](#)（2019/4/17、2019/11/27）
4. 市民シンポジウム「その後どうなっているの？トリチウム汚染水。」の開催（2019/4/14）
5. 絵本『たらちね ストロンチウム 90 分析の巻』刊行（2019/9）[本文/別冊](#)
6. [「食と放射能に関する説明会」](#)実施（2019/12/12）
7. 測定報告会（2020/2 予定のところ、コロナウイルス感染拡大により中止。[資料のみサイトに掲載](#)）
8. [放射能レポート](#)掲載『月刊りい〜ど』（2019年4月号～2020年3月号）
9. オーストラリア放送協会「[Fukushima's mothers became radiation experts to protect their children after nuclear meltdown](#)」（2019/5/12）
10. 『福島民報』掲載（2019/5）
11. 「[甲状腺がん『被曝との関連無し』の虚妄](#)」『政経東北』（2019/8/26）
12. 木村亜衣「[東日本大震災から8年 今、私たちにできること](#)」『食べもの文化』No.542（2019/9）
13. 「[子どもの被ばくを不安に思う声に答えて](#)」パルシステム『わいわい』（2019/12/2）
14. Carolyn Kormann「[Is Nuclear Power Worth the Risk?](#)」『The New Yorker』（2019/12/22）
15. 「[放射能への『疑問』と『不安』](#)」パルシステム『放射能レポート』（2020/1）
16. 『市民活動のひろば』3月号